

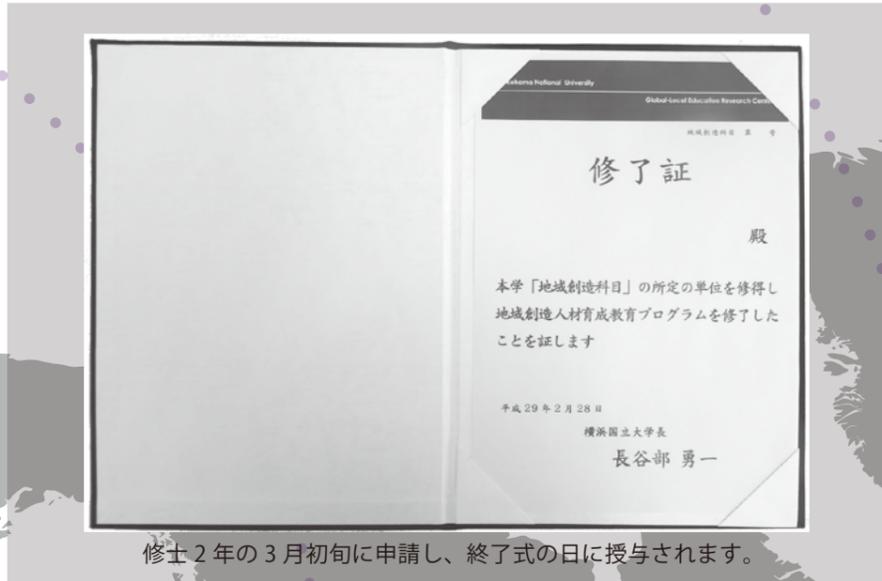
地域創造科目

Community Creative Subjects シラバス 2017

YOKOHAMA

オリエンテーション
4/12 (水) 12:10 - 12:50
建築学棟 (N5-3) 1F 大会議室

副専攻プログラムの修了証



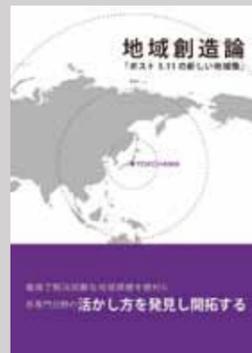
修士2年の3月初旬に申請し、終了式の日授与されます。

ブックレット

HPからダウンロードできます。

地域創造論 ～ポスト3.11の新しい地域像～

大学院の副専攻プログラムのコア科目として開講されている「地域創造論」の、2012年から2014年のテーマは、「ポスト3.11の新しい地域像」でした。本著は、その講義集として、東日本大震災以降の学際的かつグローバルな動きをとりまとめたものです。



- 第1部 東日本大震災からの復興と0からの地域づくり
1. ArchiAidの活動 小嶋一浩 / 2. 雄勝町における復興まちづくり 土岐文乃 / 3. 被災地の産業復興とエアドーム温室 河端昌也 / 4. 「生存」のための地域復興をめざす 大門正克 / 5. 震災後の被災地で実践してきたこと 大門正克 / 6. 横浜圏内地域の震災復興と地域創造：長期避難を考える 藤岡泰寛 / 7. 国境を越えひろがる市民活動 藤掛洋子 / 8. 国際的な難民支援と緊急援助 小林誉明
- 第2部 今後の地域創造における課題
9. レジリエントなサプライ・チェーン 松井美樹 / 10. 地域空間のモビリティと持続性 中村文彦 / 11. 環境未来都市への道筋 佐土原聡 / 12. 地産地消型エネルギー 現状と課題 大森明 / 13. 人の国際移動から見る「地域」 小ヶ谷千穂 / 14. 神奈川県被害予想と対策 稲垣景子 / 15. 木造仮設住宅の可能性 江口亨

『地域創造科目』の概要

全体概念

現代社会において、経済格差や教育格差の拡大、工業倫理の低下や環境問題の深刻化など、住民生活の継続や地域社会の存続に支障をきたし始めています。これらの諸課題は複雑に関連しつつ、事態を深刻化させていることから、社会、教育、工学、環境など各視点から諸課題を検討し、人々が安心して豊かな生活を営めるような地域を創造することが求められています。

本プログラムは、複雑で解決困難な地域課題に対して、各専門領域に基盤を持ち理論的に問題を捉えながらも、学際的な課題把握能力を有し、かつ総合的に解決できるような人材を育成するための高度な教育プログラムです。

General overview

In modern society, issues such as the increase of economical and education gaps, decrease in industrial ethics and intensification of environmental problems are beginning to interfere with the sustainability of local residents' lifestyles and continued existence of the local community. These various issues are complexly interwoven with one another, intensifying the situation and as such, need to be investigated from individual aspects such as society, education, engineering, the environment and so forth, in order to create a community in which people can lead rich lives with peace-of-mind.

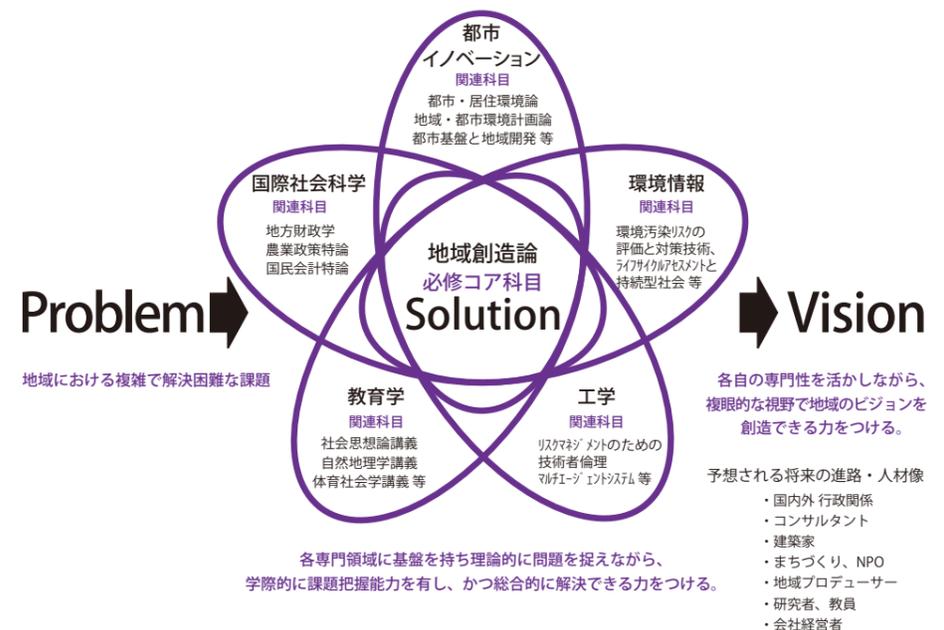
Towards complex, intractable community issues, this program takes a theoretical approach from the individual fields of expertise, and is a sophisticated educational program which aims to produce individuals who possess the ability to appraise issues from an interdisciplinary approach and propose comprehensive solutions.

*副専攻プログラムとは：

知識基盤社会が求める総合性・学際性への対応、また学生からのニーズへの対応として、自ら所属する専攻以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

*About minor programs:

Responding to the comprehensive and interdisciplinary abilities sought by a knowledge-based society as well as responding students' needs, this program enables the systematic learning of fields other than one's own affiliated major.



複雑で解決困難な地域課題を題材に
各専門分野の活かし方を発見し開拓するプログラム



「履修申請の流れ」

「オリエンテーション」4月12日（水） 昼休み

地域創造科目の説明・相談を行います。履修する予定の人、関心・質問がある人は参加して下さい。

場所：建築学棟(N5-3棟) 1F 大会議室

「履修登録」

履修登録期間については、各学府・研究科の学務窓口で確認ください。

- ・必修コア科目「地域創造論」
- ・関連科目（各自が在籍する学府・研究科の開講科目から基本的には選択する。※）

注：自分が所属している学府・研究科以外の「関連科目」を履修する場合は、履修登録期間内に「単位互換承認申請書」を自分が所属する学府・研究科の学務窓口へ提出し、部局の承認を得る必要があります。

☆副専攻プログラムとして受講し、修了証を得る場合には、地域創造論が始まる前に下記の申請が必要です。

「地域創造科目 参画登録申請書」

申請書×切：4月10~21日 or 10月2~23日

申請書は下記のHPサイト（QRコード）からダウンロードして下さい。
http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/45form/pdf/di_1.pdf

検索

提出先：地域実践教育研究センター（経済学部1号館 406室）
 あるいは chiki-ct@ynu.ac.jpへ提出して下さい。

・都市イノベーション学府の学生：修了必要単位 30単位+2単位（地域創造論）=計32単位の取得が必要です。
 ・都市イノベーション学府以外の学生：各学府・研究科の修了必要単位の中に地域創造論2単位を含めてください。

「地域創造科目」8単位以上

『地域創造科目』は、①必修コア科目「地域創造論」2単位、②「関連科目」6単位以上から成る科目で構成されています。この科目の受講・参画により所定の8単位以上を修得すると、副専攻プログラムの修了証を取得できるとともに、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム(地域創造)修了」と記載されます。

必修コア科目 + 関連科目 → 修了証

地域創造論 (1科目2単位) + 専門型関連科目 (2科目4単位以上) + 実践型関連科目 (1科目2単位以上) → 副専攻プログラム 地域創造

「修了証」

「修了認定申請書」の提出×切：8/25（9月修了の場合）3/2（3月修了の場合）

① 必修コア科目 2単位取得
 ② 関連科目（専門型関連科目） 4単位以上取得
 ③ 関連科目（実践型関連科目） 2単位以上取得

1: 地域創造科目 修了認定申請書
 右のQRコードか、地域実践センターの下記のHPから申請書をダウンロードをしてください。
http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/45form/pdf/di_2.pdf
 検索

2. 成績証明書
 修士課程2年の3月初旬において、履修科目が記載された成績証明書の発行が間に合わない場合は、「修了認定申請書」の所定欄に各学府・研究科の「学務」に「修了認定申請書」に履修確認欄に押印を頂いてください。

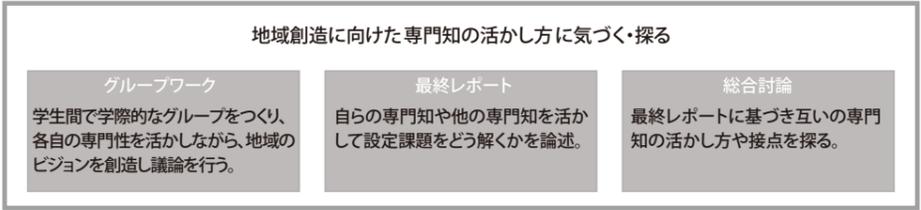
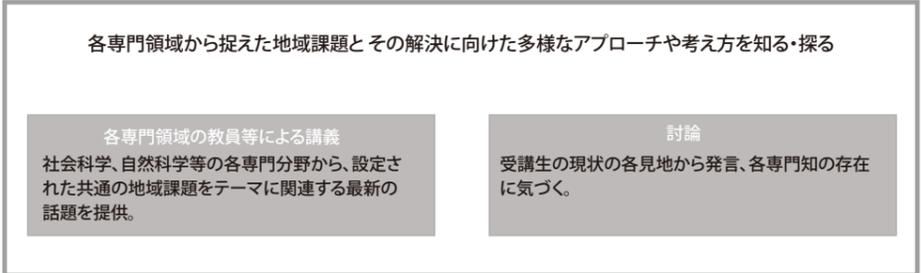
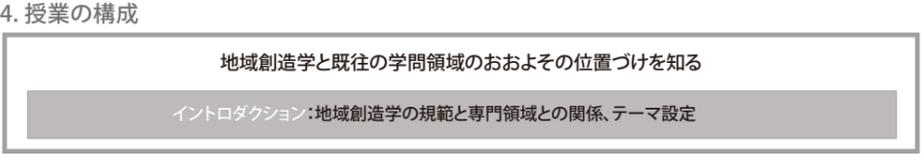
3. レポート
 実践型関連科目を、「その他」の「独自に参画する実践性の高い活動」で単位認定を受ける場合のみ、レポートの提出が必要。

コア科目「地域創造論」

※秋学期に開講

1. 授業の目的
 複雑で解決困難な地域課題を創造的に解決する方法を開拓する。地域創造学を既往の学問領域の中で位置づけたうえ、本講義の構成・内容、およびグループワークの方法等につき解説する。これを受けて、各専門領域から現代の地域課題をどうとらえているか、また、その解決に向けたアプローチや考え方はいかなるものか等につき、事例や先進的試み等を織り交ぜながら講義する。その後、専門の違う者同士でグループを組み、与えられた地域課題をめぐって現地スタディー、データ分析、ディスカッション等を行う。成果は最終回に発表し、総合討議を行なう。

2. 到達目標
- 1 自らの専門知をもとに理解したことを説明できる。
 - 2 他の専門知をもとに語られたことを一定程度理解しそれを表現できる。
 - 3 地域課題を発見し解決するグループワークに参加し与えられたパートに貢献できる。
3. 特長
- ・副専攻プログラム(地域創造)の要となる専門領域を広くカバー。
 - ・広い視野で課題を把握する能力を獲得するため、毎年特定テーマを設定。
 - ・学際的環境の中で自らの専門性を伸ばせるよう、異なる専門領域との討議を重視。
 - ・その一方、最終レポートでは自らの専門を柱に課題解決策を提起。
 - ・学外のゲストスピーカーが要所で登壇しハイブリッドな授業を展開。



講義の様子



グループワークの様子

※これまでの講義内容やグループワークの様子は「地域創造論」のブログで紹介されています。
<http://chiikisoza.blogspot.jp> 検索

「地域創造科目」一覧

- 専門型関連科目：履修生が在籍する研究科・学府の開講科目である。本専攻の修了要件との重複可とする。単位互換制度の範囲内で運用する。
- 実践型関連科目：履修生が在籍する研究科・学府の開講科目である。本専攻の科目のみ履修可能。

開講部局	科目名	担当	開講期	単位		
専門型関連科目	教育学研究科	社会思想論講義Ⅰ	山本(泰)	偶数・春	2	
		社会思想論講義Ⅱ	山本(泰)	奇数・春	2	
		体育社会学講義Ⅰ	海老原	奇数・春	2	
		体育社会学講義Ⅱ	海老原	偶数・春	2	
		社会科・公民科教授法講義	重松	奇数・春	2	
		社会科・公民科カリキュラム論講義	重松	偶数・春	2	
		人文地理学講義Ⅰ	池口	偶数・秋	2	
		人文地理学講義Ⅱ	池口	奇数・春	2	
		国際社会科学府	国際環境経済	氏川	偶数・春	2
			地方財政学	伊集	奇数・春	2
	農業政策特論		池島	秋	2	
	行政学研究Ⅲ		小池	秋	2	
	行政学研究		小池	春	2	
	工学府	社会福祉政策特論	相馬	秋	2	
		地域経済政策特論	居城	秋	2	
生態会計特論		大森	秋	2		
オペレーション・マネジメント特論		松井	秋	2		
開発協力論研究Ⅰ		小林	偶数・春	2		
開発協力論研究Ⅱ		小林	偶数・秋	2		
開発協力論研究Ⅲ		小林	奇数・春	2		
環境情報学府		リスクマネジメントのための技術者倫理	高田	春	2	
		リスク分析論	陶山、鎌田	春	2	
		マルチエージェントシステム	前田	春	2	
		触媒化学	窪田、稲垣	春	2	
		エネルギー変換システム論	妻倉	秋	2	
都市イノベーション学府		コンピュータネットワークアーキテクチャ	吉岡	秋	2	
		ライフサイクルアセスメントと持続型社会	本藤	春	2	
		環境汚染リスクの評価と対策技術	亀屋	秋	2	
	生活者のための環境リスク情報の評価	大矢	春	2		
	イノベーションと環境マネジメント	鳴海	春	2		
	地域イノベーション論	遠藤	秋	2		
	生態リスクマネジメント理論	松田	春	2		
	環境保全論	酒井	春	2		
	地球環境問題の科学	-	H29年度休講	2		
	資源循環・廃棄物リスクマネジメント	亀屋	H29年度休講	2		
	教育学研究科	都市居住環境論	中村、野原	秋	2	
		持続型集住計画論	藤岡	奇数・春	2	
		越境社会と地域/越境社会と地域交通	朴、他	秋	2	
		地域・都市環境管理論	佐土原	奇数・春	2	
		グリーンビルディング・コミュニティ計画論	佐土原、他	秋	2	
途上地域発展論		松本	春	2		
GISによる地域解析概論		佐土原、吉田	春	2		
地域計画論		松行	春	2		
都市基盤政策論		中村(文)	春	2		
国際社会科学府		体育社会学演習Ⅰ	海老原	奇数・秋	2	
	体育社会学演習Ⅱ	海老原	偶数・秋	2		
	地理学野外実習Ⅰ	吉田	(偶数・通年(集中))	2		
	地理学野外実習Ⅱ	池口	(奇数・通年(集中))	2		
	社会科・公民科教授法演習	重松	奇数・秋	2		
	社会科・公民科カリキュラム演習	重松	偶数・秋	2		
	人文地理学演習Ⅰ	池口	偶数・秋	2		
	人文地理学演習Ⅱ	池口	奇数・秋	2		
	環境情報学府	演習1a	氏川	春	2	
		演習1a	伊集	春	2	
		演習1a	池島	春	2	
		演習1a	居城	春	2	
		演習1a	小林	春	2	
	都市イノベーション学府	演習1a	小池	春	2	
		演習1a	小林	秋	2	
演習1b		小林	秋	2		
演習1b (H24年度秋:比較公共政策演習)		小池	秋	2		
その他		演習1b	小池	秋	2	
	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会演習※1	本藤	春・秋	2+2		
	イノベーションと環境マネジメント演習※2	鳴海	春・秋	2+2		
	市民運動と環境政策演習※2	及川	春・秋	2+2		
実践型関連科目	地域イノベーション論演習※2	遠藤	春・秋	2+2		
	環境都市デザインスタジオ	野原、他	春・秋	4		
	建築理論スタジオ	大野、他	春・秋	4		
都市基盤環境創造スタジオ	椿、他	春・秋	4			
その他	独自に参画する実践性の高い活動※3					

※1: 1年間の継続履修の他、併せて専門型関連科目「ライフサイクル・アセスメントと持続型社会」の履修が求められる。
 ※2: 当該演習の受講においては、これに対応する講義科目の受講を条件とする。
 ※3: 指定された科目以外に、独自に参画するボランティアや学部生向けの地域交流科目「地域課題実習」のプロジェクトのマネジメント等の実践性の高い活動については、審査の上、独自認定(2単位相当)する。ただし、当副専攻プログラムで認定されたその活動は、各研究科の正規の単位としては認定されませんので、成績証明書には記載されません。
 ※平成29年度は奇数年度の科目のみ開講